

桧尻第2排水区 大規模雨水処理施設整備事業計画（伊勢市）

（様式1）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>桧尻第2排水区は、人口・資産が集積している伊勢市の中心市街地を含み、低地であることから、ひとたび豪雨が発生すれば甚大な被害が発生するため、早急な浸水対策が急務である。なお、桧尻第2排水区は過去10年間に5回の浸水実績があり、内水氾濫シミュレーションの結果は、浸水面積39.7ha、浸水戸数1,405戸である。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画におけるハード・ソフト含めた対象降雨：103mm/hr</li> <li>・目標とする理由：昭和57年8月に市内で記録した既往最大降雨：103mm/h</li> <li>・ハード整備による整備水準の目標：78.1mm/h（1/10確率降雨）</li> </ul> <p>②目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i) 生命の保護の観点：当該排水区の居住地域である浸水常襲地区において、床上浸水を防止する。</li> <li>ii) 都市機能の確保の観点：機能保全水深を20cmと設定する。</li> <li>iii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。</li> <li>iv) その他：特になし</li> </ul> <p>③ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i) ハード対策 <p>施設整備により78.1mm/h（1/10確率）の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。</p> </li> <li>ii) ソフト対策及び自助 <p>施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨103mm/hの降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップの作成・公表などの情報提供、地域住民等へ防災講習会により早期避難を呼びかけ、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害を出来るだけ少なくする。</p> </li> </ul>

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>有</b> （平成 29 年 7 月 31 日策定済み）</li> <li>・ 策定予定 （令和・年・月末策定予定）</li> </ul>			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 雨水管渠の整備 排除面積 26. 2ha
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桧尻川排水機場のポンプ増強（国土交通省）：現況排水量 690m<sup>3</sup>/分から 1, 170m<sup>3</sup>/分に増強する。</li> <li>・ 河道整備（三重県）：桧尻第 2 排水区の排出先である一級河川桧尻川の拡幅整備を行う。</li> </ul>
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内水ハザードマップの作成・公表</li> <li>・ 危機管理型水位計による水位観測情報の収集</li> </ul>
			下水道管理者以外	・ 伊勢市防災大学の開催（伊勢市危機管理課）
	自助	ソフト対策		—

年度計画（百万円）

名称	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計
雨水管渠	620	1, 000	950	50	2, 620
計	620	1, 000	950	50	2, 620

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p>&lt;事業評価の内容&gt;</p> <p>浸水被害の軽減便益：12, 500 百万円が削減される。</p> <p>B／C：3. 5</p> <p>経済的内部収益率：13. 7%</p>
放流先河川との調整状況	本事業の実施により放流先河川への流出量が 1. 078m <sup>3</sup> /s 増加するものの、現在の河川整備計画における計画高水量以内である。
その他	当該排水区は国土交通省、三重県、伊勢市によって構成された勢田川等浸水対策協議会にて策定された勢田川流域等浸水対策実行計画において整備すべき地区としても定められている。